

令和7年度

論田小学校
「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

「豊かな人間性を持ち 自ら学び続ける たくましい児童の育成」のために
主体的で対話的な学びをいかにつくり、確かな学力と豊かな表現力をどのように育むかを念頭に、授業実践に臨む。
・わかりやすい発問により、児童の考えを深める授業の実践
・認め合い、話し合い、学び合う授業の実践

校長

学力向上推進員

【小中連携における共通の取組】

学習のめあての提示・学習の振り返りを徹底し、授業改善に努める。

【各校の取組状況の把握について】

管理職・教員間の授業参観に加え、チェックシートを活用し、取組状況の把握を行う。

◎次の（１）～（３）をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

（１）知識・技能の習得

児童生徒の状況（○よさ・●課題）	具体的目標（目指す子供の姿）	具体的方策（教員の取組）	中間期の見直し	達成状況（評価）	次年度における改善事項
○基礎的・基本的な知識・技能が身に付いた児童が増えてきている。 ●学力が二極化しており、個に応じた支援が必要である。 ●長い文章を正確に読み取ったり、自分の思いや考えを言葉で表したりすることに課題がある。 ●身に付けた知識を他の学習と関連付ける事に課題がある。	①学習課題に確実に取り組み、基礎的・基本的な知識・技能を身に付ける。 ②読書量を増やし、長い文章を正確に読み取ったり、自分の思いや考えを言葉で表したりすることができる。 ③学習の過程を通して習得した知識を既習の知識と関連付けることができる。	①復習プリントやドリル・タブレットを活用し、反復練習をさせる。 ②地域ボランティアの読み聞かせに加え、担任や委員会、上学年等が読み聞かせを行い、本に触れる機会を増やす。 ②読み取りプリントを全学年活用し、取り組む時間をつくる。 ②日記を１・２年生は週１回、３～６年生は週３回以上書くようにする。 ③授業をする前に教材研究を行う。 ③めあてに対する振り返りを適宜行う。			

（２）思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況（○よさ・●課題）	具体的目標（目指す子供の姿）	具体的方策（教員の取組）	中間期の見直し	達成状況（評価）	次年度における改善事項
○自分の考えを表現することに対して苦手意識をもつ児童が減ってきている。 ●根拠を明らかにして、自分の考えを説明することに課題がある。 ●相手の意図を捉えながら聞くことに課題がある。	①自分の考えを、根拠をもって表現することができる。 ②友達の考えを聞き、自分の考えを広げたり、深めたりすることができる。	①根拠を元に考えをもつことができるように、発問の精選や声かけ等の支援を行う。 ②ペアやグループで解き方や考え方を説明する活動を取り入れる。 ②構造的な板書により、子どもの意見を可視化する。			

（３）主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況（○よさ・●課題）	具体的目標（目指す子供の姿）	具体的方策（教員の取組）	中間期の見直し	達成状況（評価）	次年度における改善事項
○学習について、自分の言葉で振り返り、次の学びにつなげようとする児童が増えてきている。 ●自己肯定感の低さから、学習に対する意欲が低下している児童がいる。	①自分の学習の状況を振り返り、自らの課題を解決できるよう計画を立て、実践することができる。 ②「自分でできた」と達成感を持ち、学ぶ楽しさを感じ、進んで学習に取り組むことができる。	①単元計画を立て、単元のめあてに即した振り返りを行う機会を設定する。 ②児童の実態を把握し、一人一人に応じた課題を設定し、声かけ等の支援を行う。			